

件名

芹ヶ谷公園の自然環境の保全に向けた定期的な自然観察調査等の実施を求める 請願

請願主旨

芹ヶ谷公園は、町田を代表する大規模な都市公園(面積約14ha)、それも、中心市街地部に位置する立地性や恩田川へ注ぐ旧芹ヶ谷川の浸食により形成された多摩丘陵の谷戸地形がそのまま残された特殊公園であり、今も、公園内の湧水を集めて恩田川水系の豊かな「水と緑」のネットワークを形成しています。

1982(昭和57)年に公園の一部西側約4haで開園され、1991(平成3)年には公園東側約7haも開園、その後何度か整備拡張されて現在に至るが、最初の開園から40年ほどが経過しました。この間、1986(昭和61)年に国際版画美術館が開設され、そして今回、(仮称)国際工芸美術館の計画を含む「芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアム」構想の検討が進められています。

私たちは、芹ヶ谷公園の自然環境(水と緑・生態系)の保全を考えるため、勉強会を重ね、昨年12月4日には、環境土木の専門家(NPO 地球守代表理事、環境土木研究所代表理事 高田宏臣氏)を招いてシンポジウムを開催しました(別紙参照)。高田氏の指摘によると、芹ヶ谷公園の自然環境の現状はかなり危機的な状況になっているとのことです。具体的には土中環境の悪化が進んでおり、すでに高木(20m以上)が育つ環境ではないこと(根上がり・ナラ枯れ・藪化の進行)、このままでは水と緑の森を継続することは難しく、生物の多様性が失われつつあること、今回の工芸美術館の計画で、斜面地(がけ地)における建築で地形が崩されると、中長期的には公園とその周辺部はいうまでもなく、やや広く恩田川水系の土地環境に取り返しのつかないダメージを与える可能性があることを高田氏は指摘されました。

改めていうまでもないことですが、芹ヶ谷公園はその立地性ととも、谷戸地形が生かされた貴重な公園であり、市民の大切な財産です。この公園の自然環境を保全(保護・回復)し、将来世代に引き継ぐことは現役市民にとってはいわば義務ともいえます。2022(令和4)年3月に策定された「町田市都市づくりマスタープラン」においても「生きもの・文化が育まれてきたみどり環境を保全・継承する」ことが強調され、具体的な施策にも「今あるみどりを守ること」「植生を含む持続可能な管理を行うこと」「市民主役・市民協働のみどりづくりを進めること」「モニタリングによる施策効果を把握すること」などが掲げられています(同報告書方針編「5 みどり」参照)。すでに「危機的な状況」と指摘される芹ヶ谷公園を、これ以上に悪化させないようにするため、以下3点の取り組みを行うことを要望します。

請願項目

1. 芹ヶ谷公園の定期的な自然観察調査(植物・動物・水系等の主要地点での定期継続調査)を実施し、調査結果の報告、公表とともに、工夫すべき対応策(再生方法)の検討を行うこと。
2. 定期調査及び再生方法の検討に際しては、住民・行政・専門家の3者からなる協働的組織(例:芹ヶ谷公園自然観察グループ)を設置し、中長期的な取り組み体制を整えるものとする。
3. また、公園の環境保全に関心がある住民・市民の参加を広く呼びかけ、上記の取り組みが市民主体・市民協働のまちづくりの一環として、推進・支援を図るものとする。